

心の宝

令和5年
春号

優雅、上品、友情

花言葉

コデマリ
(和名・小手毬)

宗華法本顯

- 一、私たちの宗旨は顕本法華宗です
- 一、顕本法華宗の総本山は京都の妙満寺です
- 一、私たちは日蓮大聖人が定められた大曼荼羅を御本尊として篤く仏・法・僧の三宝さまに帰依します
- 一、私たちは妙法蓮華経と日蓮大聖人の御書を教えの拠り所とします
- 一、私たちはお釈迦さまを教主と仰ぎ日蓮大聖人を宗祖日什大正師を開祖として経巻相承を宗是とします
- 一、私たちはお釈迦さまの大慈大悲を信じて努めて菩薩の行を実践します

春季大法要に寄せて

総本山妙満寺総務

土持 栄孝



今年の大法要は、5月20日(土)・21日(日)の両日に亘り奉修いたします。昨年、一昨年とコロナ禍により例年通りの大法要を奉修することはできませんでしたが、今年は感染防止対策を徹底するなど工夫をこらし、全国各地より大勢の皆様にご参詣いただき、日頃の御家庭の信仰をさらに一段と深めていただきたいと思います。

信仰とは久遠の本仏お釈迦様との、いわば心の交流です。「感応道交」という言葉があります。が、「感」とは私たちの求める心、「応」とはお釈迦様が応じてくださる心です。この心の交流を「道交」といいます。お題目を一心に唱えることによりお釈迦様は救いの手を差し伸べてくださいます。その唯一救いの教えである法華経、お題目を唱えて願うこと、それが一番大切なことでもあります。春季大法要において宗祖、開祖のご遺徳を偲び、先師や皆様のご先祖に報恩感謝し、卒塔婆や塔婆牌をお建てし、先祖供養をいたしましょう。

いまだコロナ禍にあり、ここ数年はご参詣いただく檀信徒の皆様にはご心配をおかけしておりますが、お迎えする本山といたしましても万全の状態にて皆様をお待ち申し上げております。時候も一番爽やかな時でもあります。どうぞお誘い合わせの上お参りください。

合 掌

春季大法要に寄せて……………	1
まなびの時間……………	2
聖訓カレンダー……………	5
おつとめのお経一語一話……………	8
ぶらり寺々を訪ねて……………	10
仏教Q&A……………	12
写して学ぼう写経体験……………	14
住職からのまごころ一品……………	16
総本山妙満寺護持会……………	18
ひとくち法話……………	21
まちがい絵さがし……………	22
こちら編集局……………	23
宗門だより……………	23
本山だより……………	25

迷わないために

布教総監 東京都豊島区法成寺住職

秋葉敬真 けいしん



世界は今、コロナ禍の収束も見えず、戦争や気候変動に翻弄され、経済活動は停滞し、エネルギー・食糧事情などに深刻な影響を及ぼしています。

当然ながら、私たちの生活や行動様式も変化し、不安と不自由を感じる日々が続いています。このような社会不安とともに、個々の人々には、悩みのない人などい

ないという現実もあります。その悩む心の隙間にたくみに入り込む、宗教まがいの団体もありますが、平穏な暮らしを脅かすことなどは、許されることではありません。

宗教は、人の営みの中には必ずあるといわれますが、大小の組織を以って悪質な寄付を強要したり、まことしやかに個

人の不安を煽る^{あお}霊感商法を行うものもあり、特段の注意が必要で、安易にかかわってはなりません。

昨今、旧統一教会をめぐる問題を受け、被害者救済法が成立するなど、大変注目を集めています。

そこで、平素私たちが、このような悪質な宗教まがいの誘いに迷い、被害にあわないためにはどうすればよいのでしょうか。

それは、至極^{しごく}当然のことですが、顕本法華宗という純粹で正しい信仰を持ち、み佛の大慈大悲に感謝する生活をなさつていますが、これらに迷わない最良の方法であります。

私たちが、心からお唱えする南無妙法蓮華経の「南無」とは、古代インドの言

語である「ナマス」（心から信じる意）の漢字音による音写の語であります。一方その中国語の翻訳では「帰依」「帰命」などと表されており「依るべき処へ帰る」「命に帰る」と訳し、ともに「帰る」という字を用いていますのは大変優れた翻訳であります。

つまり、南無妙法蓮華経とは、妙法蓮華経（法華経）を命とし、心の拠り処とするという語意でもあるのです。

さらにやさしく申し上げるなら、南無妙法蓮華経とお唱えする人には「心の帰るべき家（法華経）がちゃんとある」ということであり、心の家があれば、詐欺まがいの誘いに迷うことなどないのです。

現代は、核家族化が定着し、少子高齢